

大正期になり、地元の人々が亀三郎らの働きを認めます。救済所が認知されたのです。そして豪商達が救済所の支援を始めます。天埜伊左衛門(亀崎の酒造家)、小栗三郎(萬三商店)、中埜又左衛門(ミツカン)。他にも、伊東合資、新美眼科、榊原伊助、尾張製粉らも援助をしています。また、高名な社会運動家の金原明善、留岡幸助や山本梅莊一門も救済所を物心両面で支援しました。

亀三郎は支援者に感謝を込め「記念碑」を建立、そこに91名の篤志家の名を刻みました。下の石碑です。



元の救済所にあった記念碑。これを平成25年(2013)に現在の史跡公園に移設した。



平成29年(2017)1月、法務省保護局長・畝本直美氏が視察に。  
(記念碑の前が保護局長)

## 成岩小学校と救済所の子ども達

亀三郎は孤児や捨て子も必ず小学校に入学させました。救済所は成岩学区。子ども達は成岩小学校に通学しました。

「救済所の子だと変な目で見られたら、いかん。みんな普通の子だ」と亀三郎は時々学校を訪問、先生や生徒と交流しました。

知多郡教育会は亀三郎を「社会教化上功劳著しき者」として顕彰、『知多郡教育名鑑』には「救済事業は常に経済的に窮乏していたにも関わらず教育には熱心」



救済所の子達が通った明治40年(1907)頃の成岩小学校。校庭の百本の樹木は亀三郎が寄贈。

「運動会等には少なからざる物品を寄贈」「校庭に樹木を百数十本寄付」と記されています。

恵まれない環境で生まれ育った子どもに決して惨めな思いはさせない。自らが困窮しても子どもには不自由させない。亀三郎の決意がみえる行為です。